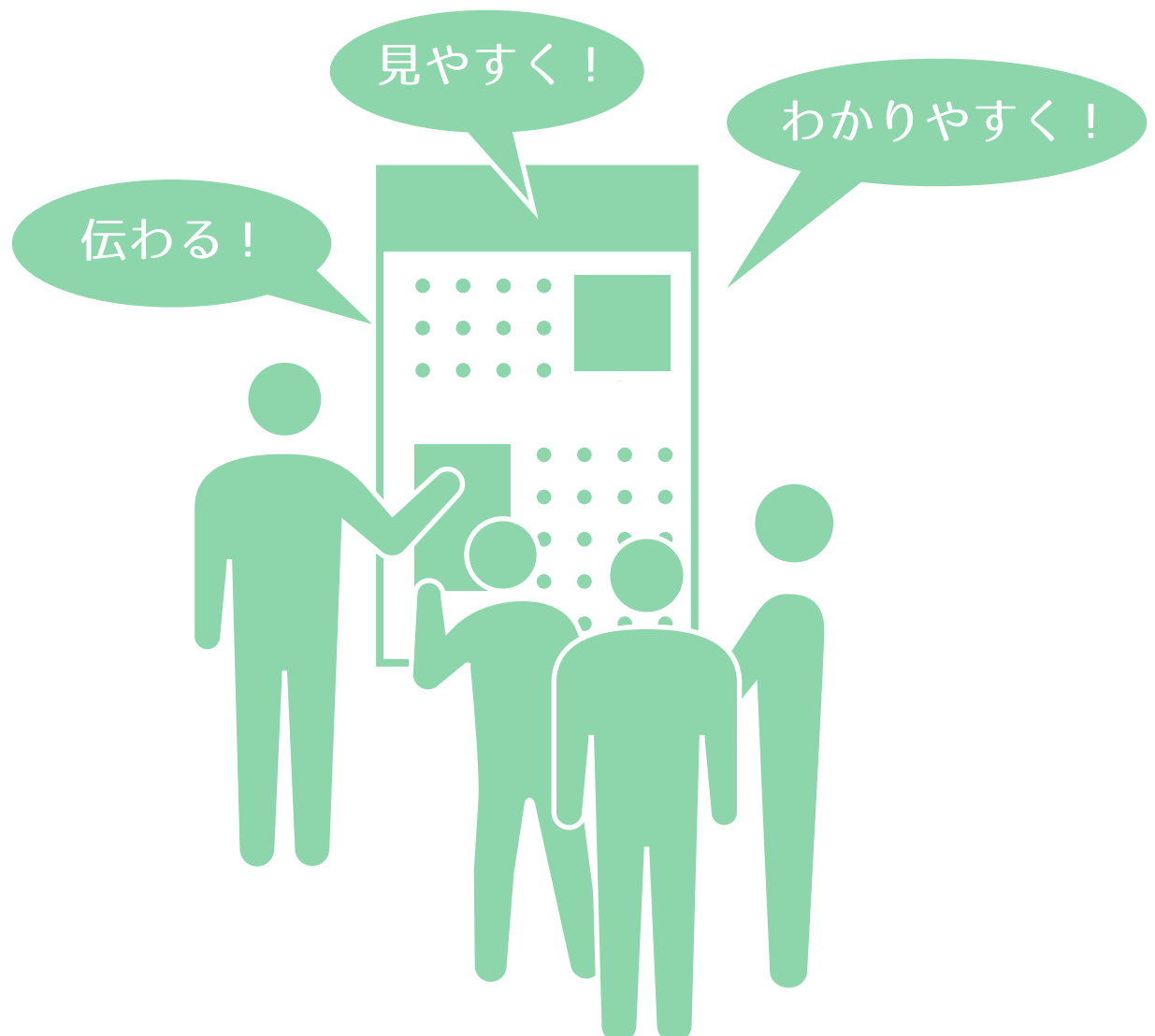


情報デザインを意識した ポスター作成入門



はじめに

プレゼンテーションとは、なんのためにするのでしょうか？

それは「伝えたいことを、伝えたい相手に、ちゃんと伝えるため」であると言えます。

そのためには、わかりやすく伝わりやすいポスターを作成する必要があります。

「わかりやすい」とは、ポスターにおいてはどのような状態でしょうか？

○ 情報が整理されている

あれもこれも伝えたい気持ちはあっても、

ごちゃごちゃ書かれていては、見る人は読みづらいしわかりにくいです。

本当に伝えたいことをシンプルに伝える必要があります。

○ 情報のポイントが目立つ

「もっとも伝えたいこと」について、わかりやすいことが重要です。

○ 情報の流れがわかりやすい

ポスターは一枚の中にはじまりから終わりまでのストーリーが完結している必要がありますがどこから読み始めて、次はどこを見たらいいのかわからないようではいけません。

流れがわかりやすいことは重要です。

こうした「伝えたい情報をわかりやすく伝える」ための手法を「情報デザイン」と言います。

「情報デザイン」を意識したポスター作りができるようになりましょう。

なお、配置、配色、グラフなどについては、

「情報デザインを意識したスライド作成入門」の方に

記載していますので、

そちらを参照してください。



目次

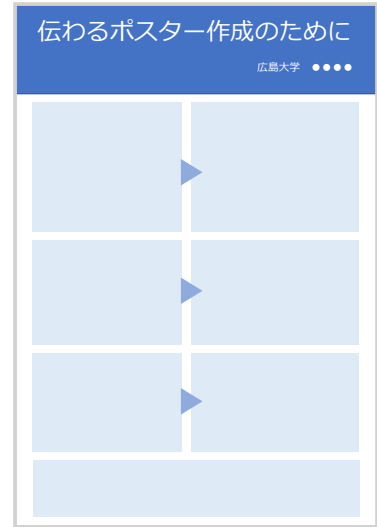
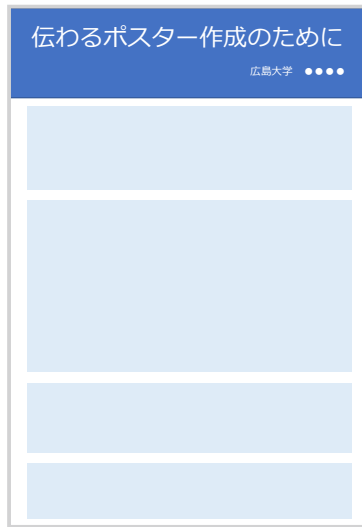
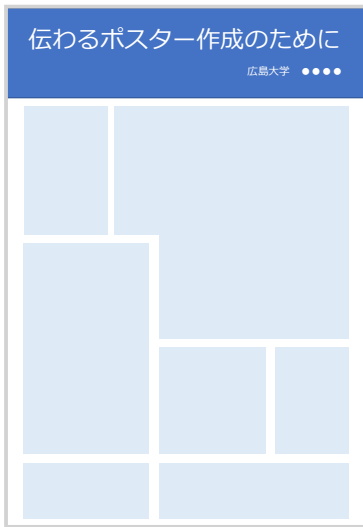
はじめに	1
1. 流れのわかりやすいレイアウト	3
2. 読みやすいテキスト	4
・ フォント	
・ 1行は読みやすい長さにする	
・ ジャンプ率	
3. 囲み枠をうまく使う	6
・ 情報はグループ化する	
・ 線と塗りはどちらかひとつ	
・ 矢印は目立たせる必要なし	
・ 全体のレイアウトでも囲み枠をうまく使う	
4. 目を惹く要素を取り入れる	9
5. ポスター発表のときは	11
・ 説明のしかたは臨機応変に	
・ 適宜, 配布資料を用意しておく	
まとめ	11
参考資料	12
本書で使った素材	12

1. 流れのわかりやすいレイアウト

ポスターは1枚の中で、序論→本論→結論のようにストーリーが完結している必要があります。そのため情報量が多くなってしまいがちなので、見るべき流れがわかりやすくなっていることが重要です。

人間の視線の動きで自然なのは「上から下」「左から右」です。

ポスターのレイアウトは、不自然な流れにならないようにする必要があります。

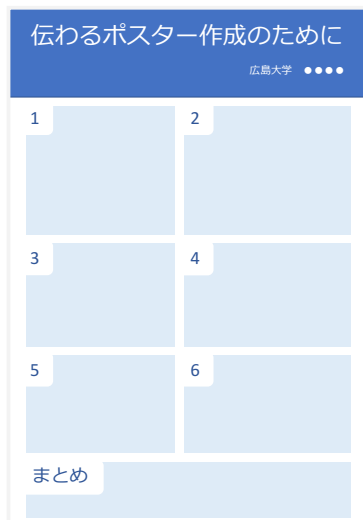


左のポスターは、見る順番がよくわかりません。

真ん中のポスターは、上から順に見ていくことが推測できます。

右のポスターでは、矢印が描いてあるため、最初左上から見て、次に右隣、

次は左下に降りて、またその右隣、と見ていくことがわかります。

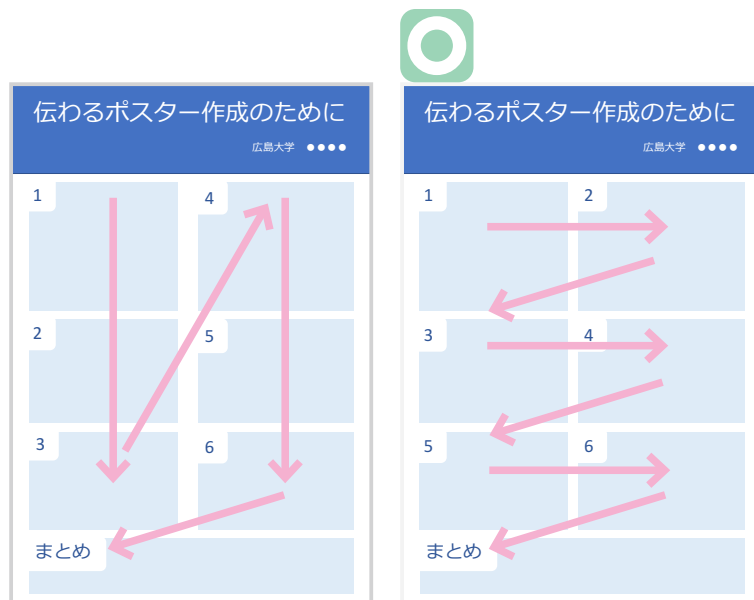


このポスターでは、ストーリーの順を番号で示していて、見る順番が非常にわかりやすくなっています。

見る人が、流れを一瞬で把握できるようなレイアウトにしましょう。

左の例では、上から下まで視線を動かして、また上に戻すので、視線を外す距離が長くなります。右の例では、左から右に動かした後、一段ずつ下りていくので、視線を外す距離は短くなります。これが横長のポスターの場合には、視線を外す距離の長短は逆になります。なるべく視線を大きく動かさないほうが、見やすいレイアウトになります。その時の形式に応じて、良い方を選びましょう。

以上のように、流れがわかりやすいレイアウトを心がけることが大事です。



2. 読みやすいテキスト

■ フォント



ポスター作成入門

ポスターで使うフォントは、「ゴシック体」が良いでしょう。



ポスター作成入門

明朝体は、手元で長文を読むのには適していますが、文字に太いところや細いところがあるので、距離があるところの文字を読むのには、あまり適していません。

ポスターはある程度近づけるものの、やはり若干の距離があるので、ゴシック体の方が適しています。

■ 1行は読みやすい長さにする



読むのが大変

4. 資料のデザイン

(1) 視力検査禁止

スライドやポスターのように、読む人と資料の間に距離がある場合には、読む人が目をこらしてみなければならないような小さいフォントや図表を使用しない。スライドの場合は、本文のフォントは28pt以上を基本とする。グラフもできるだけ1枚のスライドに1つを掲載すべきである。グラフ内の数値や文字はどうしてもフォントサイズが小さくなるため、スライドタイトルを省略する等して、グラフを大きく表示する。

(2) 余白は十分にとる

隙間なく書かれている資料は読み難い。余白や改行スペースを十分にとり、伝えたい情報に関係ないテキスト、イラストは入れないようにする。

ポスターは接近して読むことも可能ですが、それでも最短で1mは離れていると考えたほうがよいでしょう。

一行の文字数が多いと、
遠目から読みづらくなります。



段組みする

(3) シンプルレイアウト

- 一見してわからないような資料では多くの人に伝わらない。
- 説明の流れがわかりやすいレイアウトになるようにすべき。

(4) とにかく揃える

- 図、文章、画像、表などの配置位置が揃っていないと、不要な視線の動きが必要になる。
- 伝えたい情報がシンプルに伝わるように、各コンテンツは整列して配置する。

一行の文字数を減らして、
段組みすると見やすくなります。
この例では、文章も箇条書きにして、
ひとつの文章の量をわかりやすくしています。



さらに見やすく

とにかく揃える

- 図、文章、画像、表などの配置位置が揃っていないと、不要な視線の動きが必要になる。
- 伝えたい情報がシンプルに伝わるように、各コンテンツは整列して配置する。

色は3色まで

- 多くの色を用いると、統一感のない印象になり、情報が伝わりにくくなる。
- 使う色は、ベースカラー、メインカラー、アクセントカラーの3色程度にする。

さらに情報を分けて、
一度に読む量をわかりやすく示すとよいでしょう。
小見出しも、上の例よりわかりやすくなっています。

この例では、箇条書きの項目間にも、
一行分のスペースを空けています。
こうすることで、
さらにひと目で読むべき量を判別することができます。

■ ジャンプ率

「ジャンプ率」は、「本文の文字サイズに対する見出しの文字サイズの比率」のことを言います。

・ジャンプ率が高い

躍動的，目を惹きつけやすい

・ジャンプ率が低い

落ち着いた感じ，じっくり読んで欲しい時 に向いている

左のものは，ジャンプ率低めで

本文 14pt，小見出し 18pt，見出し 24pt

よって比率は，1 : 1.28 : 1.71

右のものは，ジャンプ率高めで

本文 14pt，小見出し 24pt，見出し 38pt

よって比率は，1 : 1.71 : 2.71

印象がだいぶ違うのはわかると思います。

遠目の人からでも目につくように，
ある程度ジャンプ率は高い方が良いでしょう。

ジャンプ率低め 1 : 1.28 : 1.71

ジャンプ率高め 1 : 1.71 : 2.71

プレゼンの資料

(1) スライド

- ・スクリーンに資料を投影
- ・多人数を対象
- ・視聴者との距離に配慮する必要がある
- ・スライド 1 枚に伝えたい情報は 1 つ

プレゼンの資料

(1) スライド

- ・スクリーンに資料を投影
- ・多人数を対象
- ・視聴者との距離に配慮する必要がある
- ・スライド 1 枚に伝えたい情報は 1 つ

ポスターに使うフォントサイズは，紙のサイズにもよりますが，
上記よりはもう少し大きいフォントを使います。

特にポスターのタイトルは，本文の 4 倍以上あってもかまいません。

3. 囲み枠をうまく使う

■ 情報はグループ化する

ポスターは一枚の大きな紙に、たくさんの情報を載せるため、ある程度情報を分割して、一度に取り入れるべき情報がどれくらいなのかを、ひと目で判別つくようにし、見ている人がわかりやすくする必要があります。グループ化というのは、関連ある情報は近づけて、関連のない情報は遠ざける手法です。



左の悪い例では、説明文と写真の関係性がわかりづらくなっています。

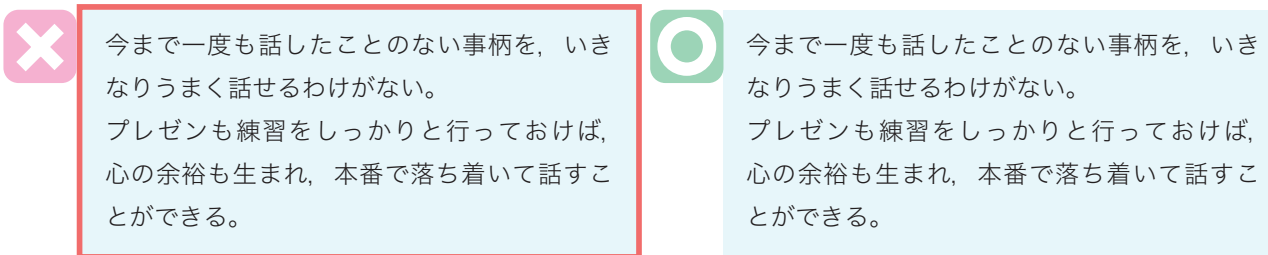
右の例では、すきまを作って、関連ない情報を遠ざけ、

囲み枠を使うことによって、関連ある情報を近づけることにより情報が整理されています。

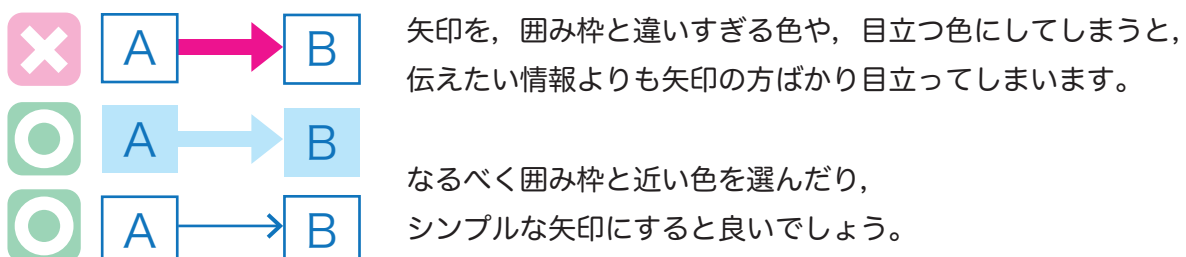
■ 線と塗りはどちらかひとつ

囲み枠は「塗り」と「枠線」の両方は使わないようにしましょう。

強調しすぎてくどい感じになり、シンプルに情報が伝えられなくなります。



■ 矢印は目立たせる必要なし



■ 全体のレイアウトでも囲み枠をうまく使う



アカデミック・プレゼンテーション

広島大学 ●●●●

1. アカデミック・プレゼンテーションとは
 「アカデミック・プレゼンテーション」とは、学習・研究内容を共有するために最適なプレゼンテーションである。以下の3点が重要である。
 (1)論理的に説明すること
 (2)事実を誇張無く正確に説明すること
 (3)根拠を明確に示すこと

2. アカデミック・プレゼンテーションの構成
 アカデミック・プレゼンテーションでは、伝えたい内容を論理的に説明することが重要である。そのためには、表のように内容を整理し、ストーリーに沿って構成していくとよい。
 プレゼンテーションは、「序論」→「本論」→「まとめと考察」という構成を基本とする。「序論」の内容は、多くの場合、「リサーチエディション」と「今までにわかっていること」とする。

	実験した時	調査した時	開発・改良した時
序論	リサーチエディションは何か これまでにわかっていることは何か（先行研究・背景等）		
本論	仮説	調査目的	課題
	実験方法	調査方法	開発・改良方法
	実験結果	調査結果	開発・改良結果
まとめと考察	何がわかったのか、 わからなかったのか		課題は解決されたのか、 されなかったのか

3. アカデミック・プレゼンテーションの資料

(1)スライド
 ・スクリーンに資料を投影
 ・多人数を対象
 ・視聴者との距離に配慮する必要がある
 ・スライド1枚に伝えたい情報は1つ
 ・動画やアニメーションを利用できる

(2)配布資料
 ・紙などの資料を配布するスタイル。
 ・少人数向き
 ・スライドによるプレゼンテーションの場合、補完資料として配布する場合がある。

(3)ポスター
 ・A1やA0のような大きな紙に印刷した資料を掲示し、その前でプレゼンテーションするスタイル。
 ・聴いている人はポスターに近づいて読むこともできるため、スライドよりも詳細な情報を記載してもよい。
 ・ストーリーを一枚のポスターで分かりやすく伝えることが重要である。
 ・ポスターを掲示しておく時間も長い場合が多いので、じっくり読んでもらえ、また、個々の相手に合わせて説明ができる。



アカデミック・プレゼンテーション

広島大学 ●●●●

1 アカデミック・プレゼンテーションとは

「アカデミック・プレゼンテーション」とは、学習・研究内容を共有するために最適なプレゼンテーションである。以下の3点が重要である。
 (1)論理的に説明すること
 (2)事実を誇張無く正確に説明すること
 (3)根拠を明確に示すこと

2 アカデミック・プレゼンテーションの構成

アカデミック・プレゼンテーションでは、伝えたい内容を論理的に説明することが重要である。そのためには、表のように内容を整理し、ストーリーに沿って構成していくとよい。
 プレゼンテーションは、「序論」→「本論」→「まとめと考察」という構成を基本とする。「序論」の内容は、多くの場合、「リサーチエディション」と「今までにわかっていること」とする。

	実験した時	調査した時	開発・改良した時
序論	リサーチエディションは何か これまでにわかっていることは何か（先行研究・背景等）		
本論	仮説	調査目的	課題
	実験方法	調査方法	開発・改良方法
	実験結果	調査結果	開発・改良結果
まとめと考察	何がわかったのか、 わからなかったのか		課題は解決されたのか、 されなかったのか

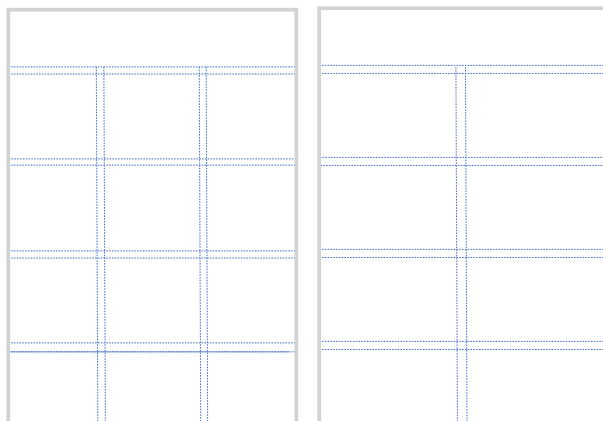
3 アカデミック・プレゼンテーションの資料

● **スライド**
 ・スクリーンに資料を投影
 ・多人数を対象
 ・視聴者との距離に配慮する必要がある
 ・スライド1枚に伝えたい情報は1つ
 ・動画やアニメーションを利用できる

● **配布資料**
 ・紙などの資料を配布するスタイル
 ・少人数向き
 ・スライドによるプレゼンテーションの場合、補完資料として配布する場合がある。

● **ポスター**
 ・A1やA0のような大きな紙に印刷した資料を掲示し、その前でプレゼンテーションするスタイル
 ・聴いている人はポスターに近づいて読むこともできるため、スライドよりも詳細な情報を記載してもよい
 ・ストーリーを一枚のポスターで分かりやすく伝えることが重要である
 ・ポスターを掲示しておく時間も長い場合が多いので、じっくり読んでもらえ、また、個々の相手に合わせて説明ができる。

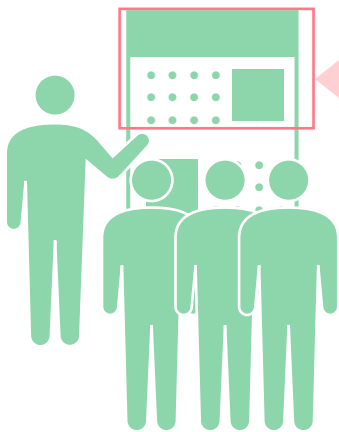
左の例は、配布資料のように、読ませるレイアウトになっています。間に入っている表も、上の説明文のものなのか、下の説明文のものなのか、ひと目ではわかりません。右の例では囲み枠をうまく使うことで、情報が整理され、一度に見る量が判別でき、見やすくなっています。



レイアウトするときは、このようにガイド線を引くなどして、グリッドを作り、そこに各セクションをあてはめるようにすると、整列され、見やすくなります。

4. 目を惹く要素を取り入れる

ポスター発表の形式にもよりますが、だいたい学会等の場合は、自分以外にも数多くのポスターが同じ会場に貼られていて、来ている人は興味の惹かれたポスターの前で立ち止まり、ポスターを眺めたり、発表者の話を聴いたりします。逆に言えば、通りすがりの人の足を止めてもらうような何かが無いと、せっかく発表に来たのに話を聴いてもらえなくなります。



まず、見えるのはこの部分

ポスター発表の際は、人だかりができていて、下のほうが見えないことがよくあります。上の方に惹きつける情報を掲示している必要があります。

通りすがりの人に足を止めてもらうためには、次のようなことが必要になります。

(1) タイトルが大きく目立つ

タイトルは、フォントサイズを大きくし、配色もコントラストをつけるなど目立つようにしましょう。

(2) タイトルはわかりやすく

タイトルをパッと見て、どんな内容なのかを伝えるようにしましょう。よくわからないタイトルだと、内容を見てもらえない可能性があります。

(3) キービジュアルを置く

通りすがりの人の目を惹くように、図などを大きく配置しておくといいでしょう。ただグラフを大きくするより、内容の主たる部分を表している図や画像などが良いです。



猫の視覚に関する研究

広島大学 ●●●●

1. 背景と目的

猫の視力は、人間の1/10と言われる。まず猫の目は、瞳孔の大きさを変えて、取り入れる光の量を調整している。光を反射して視神経にタペナム層がある。これによって、人間にとっては暗闇のようなところでも獲物を捕まえることができる一方、画像がぼやけてしまうというデメリットもある。

また角膜が厚いことも、ぼやけさせてしまう原因にもなっているが、これも少ない光をなるべく集めるためである。人間には3本の錐状体があるが、猫は2本しかないため、色の識別力が低い。一方、光を感じる桿状体は人間の約3倍の多さである。猫の目は暗所でも、物体をとらえることに特化していることがわかる。

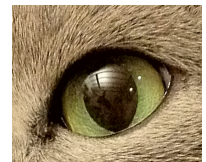


猫の視覚に関する研究

広島大学 ●●●●

1. 背景と目的

- ・瞳孔で光の量を調整
- ・少ない光を吸収するしくみ
- ・タペナム層
- ・角膜が厚い
- ・桿状体が多い
- ・猫の視力は悪い（人間の1/10）
- ・画像がぼやけやすい
- ・色の識別力が低い（赤は認識できない）





eラーニング教材の改善とその評価

広島大学 ●●●●

1. 背景と目的

2015年度までは、文章形式だった教材を使用していたが、どのくらいちゃんと読まれていたかが不明であった。より学習効果を上げることを目的に、2016年度から図などを中心としたスライド形式の教材に変更した。本研究では、アクセスログから教材の変化を分析し、教材が評価できるかを検討する。

2. 分析

eラーニングシステムのアクセスログを年度ごとに集計し、解析した。図1は教材ページ滞在していた時間を割合で箱ひげ図にしたものであり、全体的に2016年度のほうが滞在時間が長くなっていることがわかる。平均滞在時間は2015年度が58.7秒、2016年度が91.1秒。

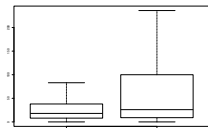


図1：教材ページの滞在時間の度数分布

図2は滞在時間の度数分布をヒストグラムにしたものである(500を超える滞在時間については省略)。青が2015年度で、赤が2016年度、重なっている箇所が紫色になっている。全体的に2015年度の滞在時間は短く、おそらくほぼさっと見ただけであることがわかる。2016年度は滞在時間が長い方に分布が寄っており、全体数としても多いのがわかる。

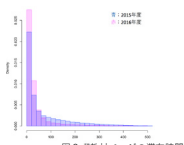


図2：教材ページの滞在時間

3. まとめ

アクセスログを解析することにより、受講者の教材滞在時間を比較することができた。これにより、文章形式の教材よりもスライド形式の教材の方が、よく閲覧されていることがわかった。よって、本研究で教材の変化をアクセスログで比較および評価ができることがわかった。



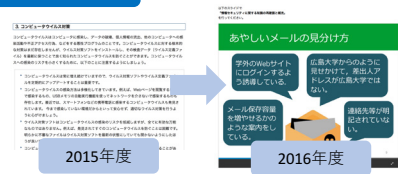
eラーニング教材の改善とその評価

広島大学 ●●●●

1. 背景と目的

2015年度まで：文章形式だった
2016年度：スライド形式

変化を分析し、効果を検証する。



2. 分析

eラーニングシステムのアクセスログを年度ごとに集計し、解析した。図1は教材ページ滞在していた時間を割合で箱ひげ図にしたものであり、全体的に2016年度のほうが滞在時間が長くなっていることがわかる。平均滞在時間は2015年度が58.7秒、2016年度が91.1秒。

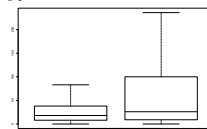


図1：教材ページの滞在時間の度数分布

図2は滞在時間の度数分布をヒストグラムにしたものである。青が2015年度で、赤が2016年度、重なっている箇所が紫色になっている。全体的に2015年度の滞在時間は短く、おそらくほぼさっと見ただけであることがわかる。2016年度は滞在時間が長い方に分布が寄っており、全体数としても多いのがわかる。

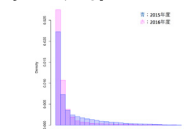


図2：教材ページの滞在時間

3. まとめ

アクセスログを解析することにより、受講者の教材滞在時間を比較した。これにより、文章形式の教材よりもスライド形式の教材の方が、よく閲覧されていることがわかった。よって、本研究で教材の変化をアクセスログで比較および評価ができることがわかった。

左の例は、タイトルも小さく、また研究の目的などが、一見してわかりづらいです。右の例では、教材の変化を図で示すことによって、パッと目につきやすく、「文章の教材が絵を使ったものになっている」という変化がわかるようになっています。

背景色や囲み枠を使って、セクションがわかりやすくなっています。タイトルのフォントサイズも大きく表示しています。

5. ポスター発表のときは

■ 説明のしかたは臨機応変に

ポスター発表の場合は、状況によって話す対象人数が異なります。

多人数におこなう場合は、ストーリーに沿って説明します。

ポスターのどの箇所を説明しているのかわかりやすいように、該当箇所を指で示しながら説明するとよいでしょう。

1人か2人くらいに説明する場合は、質問にも随時答えるようなかたちで、対話形式でおこなうとよいでしょう。

■ 適宜、配布資料を用意しておく

ポスター1枚に書ききれぬ量には制限がありますので、

よりデータを詳しく見せたい等の場合には、紙の配布資料を用意しておくといよいでしょう。

学会などの場合は、予稿を印刷しておくのも1つの方法です。

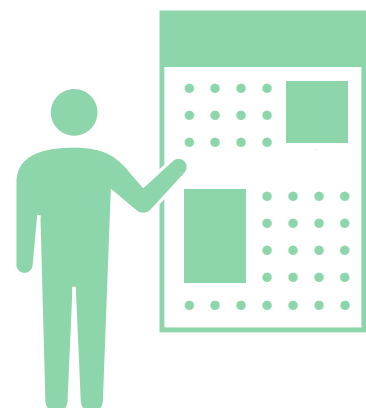
説明を聞いてくださる方々に紙の資料を渡して、

「詳しくはここに書いています」「元のデータはこちらになります」等、補足的に利用するとよいでしょう。

まとめ

「伝えたいことを、伝えたい相手に、ちゃんと伝える」ことを意識して、ポスター作成に臨めるようになったでしょうか？

見やすいポスターであることが、「伝えたい情報をわかりやすく伝える」ことに繋がります。



参考資料

「研究を視覚的に伝える 学術情報デザインの基礎」

遠藤潤一，齋藤芳子 名古屋大学高等教育研究センター 2013年

「伝わるデザインの基本」

高橋祐磨，片山なつ 技術評論社 2014年

「情報デザインベイクシス」

遠藤潤一，奥村和則，寺田勝三，内藤美千絵，茂登山清文 ユニテ 2008年

本書で使った素材

ピクトグラム：表紙，P9,11

ヒューマンピクトグラム 2.0 <http://pictogram2.com/>

表紙タイトルのフォント

FG ラブリー

<http://fontgraphic.jp/blog/item/107-fglvelydownload.html>

著 者 : 天野 由貴
発行日 : 2019年5月19日
連絡先 : y-amano10@hiroshima-u.ac.jp
配布サイト : <https://home.riise.hiroshima-u.ac.jp/~ten/>

この小冊子は、配布サイトからダウンロードしていただき、
印刷や配布をしていただくことが可能です。

<https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/deed.ja>

